

# よく耳にするこの言葉、 あなたはどのくらい知っていますか？



☎政策推進課市政総合研究室 ☎704-4006

SDGsという言葉はよく耳にするけれど、壮大なビジョンで自分にできるのではないと感じている人も多いのではないのでしょうか。そこで、実際にSDGsに関わる活動をしている人たちのお話や、私たちの「身近なSDGs」を紹介します。さまざまな価値観や考えを持つ人がいる社会で、どうやってこの目標を達成していくのか、今日から考え、できることから始めてみませんか。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<p><b>1</b> 貧困をなくそう</p>	<p><b>2</b> 飢餓をゼロに</p>	<p><b>3</b> すべての人に健康と福祉を</p>	<p><b>4</b> 質の高い教育をみんなに</p>	<p><b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p><b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p><b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p><b>8</b> 働きがいも経済成長も</p>	<p><b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p><b>10</b> 人や国の不平等をなくそう</p>	<p><b>11</b> 住み続けられるまちづくりを</p>	<p><b>12</b> つくる責任 つかう責任</p>
<p><b>13</b> 気候変動に具体的な対策を</p>	<p><b>14</b> 海の豊かさを守ろう</p>	<p><b>15</b> 陸の豊かさを守ろう</p>	<p><b>16</b> 平和と公正をすべての人に</p>	<p><b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう</p>	

サステナブル デベロップメント ゴールズ

SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。2015年の国連サミットで採択されたもので、持続可能でよりよい世界を実現するために、2030年までに達成すべき国際目標です。

この目標は以下の17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されており、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ということを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身も共通して取り組むもので、日本も積極的に取り組んでいます。

より良い社会にするために私たちができること

# みんなでSDGsを考えよう

具体的に何をしたらいいのか分からないという人も多いのではないでしょうか。今回は、市内でSDGsにつながる活動をしている3つの市民団体にお話を伺いました。ご紹介した活動をヒントに、皆さんも身近なところから「持続可能な未来」を考える一歩を踏み出してみませんか。

## まつどフードバンク (平成31年2月設立)

### 食のセーフティネットワークをつくり みんなが豊かにくらせる社会を



代表・南澤正久さん

フードロスと生活困窮者をなくすことを目指し、市内初のフードバンクとして立ち上げました。企業・農家や一般家庭からまだ食べられる食材を譲り受けて、生活困窮者や子ども食堂などに届け、困っている人たちが自立できるよう橋渡しの活動を行っています。

具体的には、毎月約100キロの食材を届けています。市内の3つの農家と企業1社から定期的に寄付をいただいている他、昨年6月から㈱ダイエーが毎月第3週の1週間、店頭でフードドライブを行ってくれています。支援先は、子ども食堂など10団体、個人では40~45世帯です。お米や調味料などの手に入りにくい食材は、

フードバンクちばから支援していただいています。

まだ立ち上げて間もないので規模も小さく、当初は自費で活動していましたが、今期は市の市民活動助成金により、なんとか活動を続けています。日々の食事などに困っている人、その支援をしたい人からのご連絡をお待ちしています。ボランティアも募集しています。

〒090-4498-2654、FAX 392-5656、  
✉matsudo.fdbk@gmail.com



同団体  
ホームページ



## 一般社団法人 銀座環境会議 (令和元年5月設立)

### 都市住民の暮らしを変革し 持続可能で循環型の社会をつくる



代表理事・平野将人さん

都市の環境問題をテーマに、3つの活動を行っています。1つ目は市民発電所の設置です。教会など公共性の高い建物に太陽光パネルを設置してCO<sub>2</sub>の排出量を減らすとともに、災害時には充電ステーションとして地域の安心を高めます。市民にパネルオーナーという形でパネルを買っていただくのですが、それは初期費用を賄うだけでなく、啓発という目的もあります。昨年5月に第1号が完成し、順調に発電とCO<sub>2</sub>削減を行っています。

2つ目は給水スポットの拡大です。市内のお店などに、誰でも無料で水道水が飲める・汲める給水スポットとして参加していただくことで、ペットボトルや缶を減らすとともに熱中症を防ぎ、さらには人と人の交流を増やしたいと考えています。

3つ目はSDGsの直接的な啓発活動です。カードゲームを使用したセミナーや、SDGsの実現・達成に寄与するような商品子どもたちと一緒に選んで販売するSDGsマルシェなどを行っています。また、市内の子ども食堂や学童で、電動三輪車に子どもを乗せて遊んだり、環境学習もするイベントを無料で行います。企業・団体向けのSDGs研修(有料)もありますので、興味がある人はお問い合わせください。

〒(一社)銀座環境会議  
ホームページ問い合わせフォーム、  
✉info@ginzakankyokaigi.net



同団体  
ホームページ



## まつど地域活躍塾 つながりの会 (平成31年1月設立)

### 松戸を想う仲間が集まって SDGsの普及啓発活動を実践



会長・佐藤孝逸さん

つながりの会は、市が主催する「まつど地域活躍塾」で一緒に学んだ者同士がその後のつながりを維持し、新たな活動に取り組む組織として、1期修了生の有志で立ち上げ、現在の会員数は37人です。SDGsという言葉はよく耳にするけれどまだ知ってる人が少ないので、市民にもっと知ってもらわなければならないかという声からメンバーから上がり、SDGsの啓発が活動テーマになりました。

具体的な活動としては、毎年市が開催している「松戸市消費生活展」に令和元年から3年続けてポスター展示を行い、活動の成果を発表しています。令和2年には、5回シ

リーズのSDGs基礎講座を開催し、市の助成金を得た今年度は2月23日(祝)に活動の集大成となるSDGsフォーラムを開催しました。来年度も引き続き発展的な活動を続けていきますので、多くの人のご参加をお待ちしています。

〒まつど地域活躍塾 つながりの会Facebook、  
✉matsudo.tsunagari@gmail.com



同会  
Facebook



# 特別座談会



まつどフードバンク  
代表・南澤正久さん

一般社団法人  
銀座環境会議  
代表理事・平野将人さん

まつど地域活躍塾  
つながりの会  
会長・佐藤孝逸さん

## 活動を始めたきっかけ

### 歴史ある「常盤平団地」でコミュニティーづくりの可能性

平野 もともとNPOやNGOで仕事をしていました。平成30年3月までラオスに駐在していて、帰国後は一度住んだことのある松戸市に戻り、今は常盤平団地に住んでいます。ラオスは経済がどんどん発展している中でも、ご近所の交流が強く、助け合いもある国です。日本もそんな温かい社会になったらいいなと。街づくりに貢献できるような環境活動を日本でやりたいと考えたとき、歴史があり大きくて緑が残っている常盤平団地は、コミュニティーづくりの可能性があると思ったんです。



松戸そらびか発電所第1号（新松戸）

### 世界の貧しさに直面。自分が暮らす松戸から

南澤 10年ほど前に赴任先のタイで大洪水にあったとき、現地の人々は自分も被災しているにもかかわらず、食事を持ってきてくれるなど助けてくれました。その後、恩返しをしたいとボランティアの世界に飛び込み、たくさんの困窮した人々を目の当たりにしました。自分が暮らしている松戸でも地域貢献をと考え、日本で初めてフードバンクを始めた団体などにボランティアに参加したのをきっかけに、「まつどフードバンク」を立ち上げました。家庭菜園や料理の勉強をしていたことを生かしたい、と思ったこともきっかけの一つです。

### 「まつど地域活躍塾」のOB・OGメンバーで設立

佐藤 会社員時代に消費生活アドバイザーの資格を取り、それを生かしたくて「まつど地域活躍塾」に参加しました。「つながりの会」は活躍塾の第1期修了生によりスタートし、平成31年1月に正式に設立しました。市が毎年開催する「消費生活展」にSDGsに関心のあるメンバーで参加したのが、具体的な活動の始まりです。「2030へ、SDGsをみんなで！」という内容について大きなポスターを4枚ほど制作して展示し、その後も参加しています。SDGsの普及啓発活動として基礎講座も開催しています。

## 印象に残っている出来事

### 活動が子どもたちの体験の場に

平野 太陽光パネルの設置は、子ども食堂などの地域活動で知り合った子どもたちと一緒にやっており、その他に海のごみ拾いや、果樹の植樹などもしています。これらの活動をしていく中で、見た目では分からない子どもたちの「体験」の面に差が結構あることに気づきました。環境活動が、子どもたちの貴重な体験の場にもなってくれたらと思っています。

### 食べることができない家庭のために

南澤 本当に困窮していて直接連絡をくれる方がいらっしゃるのですが、2日間何も食べてない、というような話をお聞きすると、フードバンクの活動は大切だし、続けていかななくてはいけないと強く感じますね。子どもたちから「ありがとう」とシールを貼ったはがきをも

らったり、保護者の方から「本当に助かりました」とお言葉をいただいたりすると、その人たちのためにこれからも頑張ろうと思います。

### 社会の広範にわたるSDGsだからこそ さまざまな企業や団体が協力

佐藤 一昨年の基礎講座は受講者は少なかったのですが、「講座を受けてSDGsの内容がよく分かった」といったコメントが寄せられ、とても励みになりました。そこで、PRの仕方を見直したり、他の団体にも声をかけ協力してもらおうということになり、結果として一気に13の団体や企業と一緒に開催することができました。子育て支援や里山を守る会など、協力団体は本当に多岐にわたっているのですが、それも社会生活の広範にわたる目標を持つSDGsが横軸になっているからなのだと思います。

## 今後の目標と市民の皆さんへ

### 廃棄される食品の半分弱は家庭から

南澤 今後は、スーパーなどの企業や他の団体と連携した活動を増やしていきたいですね。自分たちの活動としては、フードドライブ（家庭で余った食品を指定の場所に持ち寄って寄付する活動）をもっと行っていきたいと思っています。廃棄されている食品の半分弱は家庭から出ています。安売りしているものをたくさん買ってしまったりなど、そういう行動を見直していくと、食に対する考えも少しずつ変わってくるんじゃないかな。つくる責任・つかう責任を認識することで、皆さんの意識が変わっていくと思います。



フードパントリーの様子

### 昨日までのやり方でいいならSDGsは必要ない

平野 SDGsは17の目標と169のターゲットがありますが、その他にも副題のような「我々の世界を変革する」という言葉も掲げられています。昨日までのやり方でいいんだったらSDGsは必要ないはず。変革する必要があるってところを皆さんに伝えていきたいですね。個人の頑張りも当然のこととして、私たちの活動によって、企業や行政・政治家に対して行動したり要求したり発言したりする人を増やしたいというのが、私の活動の原動力であり目的です。

### 自分が思うことからやってみよう

佐藤 私は消費生活サポーターの養成講座などでも活動していますが、そこでは考えを実際に文字にして、書いたものがSDGsのどの目標とつながっているかを視覚的に確認しています。講座では「市民が(S)、できることから(D)、自分ごととして(G)、進めよう(s)」という私なりのスローガンの話をしています。自分が思っていることがあれば、難しいことは考えずそこからやってみよう、ということを広く伝えていきたいです。



研修風景

# 松戸市は地方創生SDGsを推進しています

図政策推進課市政総合研究室 ☎704-4006

令和3年8月に市長を本部長として松戸市地方創生SDGs推進本部を設置し、SDGs達成に貢献していくことを宣言しました。



松戸市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



松戸市は、市民、企業、各種団体などのステークホルダーとのパートナーシップを推進し、「経済・社会・環境」の三側面の調和を保ち、現世代と将来世代がともに安全・安心に暮らせる持続可能な優しいまちを実現させる取組を進めることにより、我が国や世界のSDGs達成に貢献することを宣言します。

松戸市地方創生SDGs推進本部本部長 本郷谷 健次

## 民間企業と「地方創生SDGsに関する包括連携協定」を締結しています

地方創生SDGsの推進を図るため、民間企業と「地方創生SDGsに関する包括連携協定」を締結し、積極的に連携を進めています。



株千葉銀行  
令和3年10月6日



株イトーヨーカ堂  
令和4年1月12日



損害保険会社4社 (あいおいニッセイ同和損害保険株・損害保険ジャパン(株)・東京海上日動火災保険(株)・三井住友海上火災保険(株)) 令和4年1月24日

## 「ちばSDGsパートナー登録制度」に登録されました

SDGs推進の土台を構築し、具体的な取り組みを後押しするために千葉県が創設した制度で、松戸市は2月に自治体として初めて登録されました。今後、千葉県や県内の企業・団体などと連携し、SDGsを推進する取り組みを進めていきます。



ちばSDGs

私たちのちょっとした行動で世界はもっと素敵になる！

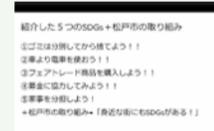
## 「松戸市内の大学生によるSDGsフォーラム」を開催しました

2月10日(木)にオンラインで開催したSDGsフォーラムは、産学官が連携し、市内にある聖徳大学・千葉大学園芸学部・日本大学松戸歯学部・流通経済大学の学生の企画・運営、(株)千葉銀行の後援により行われました。

講演でSDGsの理解を深め、学生が行ったセミナーでは「日常生活とSDGsの関わり合い」をテーマに、身近なSDGsについてクイズを交えながら紹介しました。参加者の質問に学生が自分の言葉でSDGsの考えや体験を伝えたりと、参加者と一緒に『普段の生活で自分ができること』を考えました。※録画放映の他、YouTubeによるアーカイブ配信を行います。詳細は市ホームページをご覧ください。



市ホームページ



同フォーラムの様子



みんなが今日からできること

### セミナーで紹介された「身近なSDGs」

#### ごみの分別



プラスチックや紙、缶・ビンなどを分別することで、ごみがリサイクルできる資源となり、再利用されます。資源やごみが適切に処理されることで持続可能な生産消費がされ、ごみが減り、街や海の美化と保護につながります。

#### 自動車の利用を減らす



日本の二酸化炭素排出量は世界で5番目に多く、2019年度は約11億794万トンです。これは1人当たり年間約8.5トンを排出していることとなります。排出量の割合を多く占めるのは運輸や営業・家庭などで使用される車の排気ガスです。移動手段を電車や自転車・徒歩などに変えることで、車の使用頻度が減り、気候変動などの原因となる温室効果ガス削減につながります。

これらは皆さんも今日から気軽にできると思いませんか？ここで紹介した事例はほんの一例です。SDGsの17のゴールといった枠にとらわれる必要ありません。難しく考えず身近な問題として捉え、今、あなたができることから始めませんか。

広報まつど4月15日号から  
月1回SDGsに関する  
連載を始めます。  
お楽しみに！



広告